



AA日本ニューズレター

No.171

■ AA日本40周年記念集会在開催されました。

40周年記念集會実行委員会 委員長 仲嶋

2015年2月20日、21日、22日の3日間にわたって、神奈川県横浜市にある神奈川県民ホールと横浜市開港記念会館でAA日本40周年記念集会在開催され、無事終了しました。この場を借りて、改めて全国の仲間の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

今回の記念集会是、チケット方式ではないため正確な数字ではありませんが、受付にて配布したネームホルダーの数を集計しますと、3日間の参加者合計は2000名を超えた模様です。さらに内訳をみると、AAメンバーがおよそ1800名、AAメンバー以外(医療・行政関係者、家族等)がおよそ250名、報道関係者がおよそ20名となっています。

会場を選ぶ時に、目標とする参加人数が何人かによって会場が決まると言われ、「では目標2000人で」と簡単に答えましたが、当時はそれぐらいの意気込みでやらねばということで、内心では2000名に届くかどうか疑心暗鬼でした。しかし初日の午前中、まだ県民ホールでの受付が始まる前から仲間がやってきて、そのうち大勢の仲間がやってきて、やっぱり仲間は40周年記念集会在を忘れないでいてくれたんだ(?)とほっとしました。

今回の記念集会で私が一番印象に残ったこと。それは、みんな仲間と出会うのが本当に嬉しいんだなあとということです。普段会えない仲間、遠くに住んでいて何年ぶりかで会った仲間、海外からきた仲間、仲間から紹介されて新しく知った仲間。みんな出会うとその場で話が始まり、県民ホール会場は、ロビーが一番盛り上がりしていたのではないかと感じるほどでした。そこには飲まない喜びがあふれていたと思います。

さて、今回の記念集会上では初めて献金方式を採用させていただきました。最初は目標の500万円に到達することができるのか不安でしたが、蓋を開けてみれば、予想を上回るペースで目標を達成することができ、改めて仲間の力を感じることができました。実行委員会では、皆様からいただいた献金を大切に、そして有効に使うことを心がけ、何度となく予算について話し合い、その都度修正を重ねてきました。途中、予算が500万円を超えることがあり、実際の献金も500万円を超えていて、40周年のためになされた献金なのだから500万円を超えて使っても良いのではないかという意見も出ました。しかし、献金をお願いする時、500万円以内で開催することを約束した以上、それは守らなければいけない、ということで最終的に500万円以内の費用で開催することができました。

結果的には、献金方式でも行うことができるということが実証され、成功したといえるでしょうが、問題がなかったわけではないと思います。

一番の問題点としてあげられるのは、JSOはじめ全国のセントラルオフィスへの献金が減ってしまったのではないかとことです。40周年献金については、専用の献金袋を回してもらえよう呼び掛

けたりして、できるだけ通常の献金に影響がでないように実行委員会としても配慮をしたつもりですが、実際に影響がなかったとは言えないと思います。こういった問題点も含めて、今回の記念集会的の棚卸をして、次回以降の記念集会上にしっかりと手渡していくようにしたいと考えています。

最後に私自身のことを述べさせていただくと、今回の記念集会上では多くのものをいただきました。その中でも最大のものは感謝の気持ちを持たせてもらったことです。当日参加してくれた仲間達、全国から集まってくれたボランティアの仲間達、寒い中会場の外で道案内に立ってくれたり、各種ミーティングを担当してくれたりした地元横浜地区の仲間達、通訳を担当してくれた仲間達、フラッグ行進、カウントダウンなどのプログラムを盛り上げてくれたヤングの仲間達、そして、3年間苦勞を共にしてきた実行委員会の仲間達。その他、もっともっと多くの仲間達、開催に際してご協力いただいた関係者の皆様。これらすべての方たちに、いくら感謝してもしきれません。

アルコール依存症という病気の恐ろしさをもっと広く理解してもらおうと同時に、回復できることを「まだ出会っていない仲間たちへ」伝えることができたなら、3年間苦勞してきたことも喜びに変わります。全国の仲間の皆様、本当にありがとうございました。

次回45周年は関西です。2020年、関西で会いましょう!

～「まだ出会っていない仲間たちへ」～



※これは販売用に使用した写真です。

40周年記念集會を振り返って

40周年記念集會実行委員会 フォレスト(森)

40周年記念集會が無事に終わりました。今回は入場が自由ということもあり、正式な人数は把握できませんが、2000人以上が参加してくれたようです。日本のAAメンバーが、約5000人ということ考えると少し寂しい気はしますが、結果よりもそこに至るまでの経緯が重要で、全体を考えると想像をはるかに超えるような内容のものができました。プロジェクターを使ったもの、同時通訳、フラッグ行進は、手をかけただけのものが出来上がりました。

最初の実行委員会が、2012年3月11日で、そこから約3年間、全体会議は合計で31回、各委員会(広報・財務・プログラム・設営・歓迎・事務局・議長団)も独自に会議を行い、合計するとおそらく100回以上になったでしょう。私自身、昨年夏以降は、なんらかの形でほぼ毎週40周年関係の会議等に参加していたかと思えます。準備期間の中いろいろな問題を試行錯誤のなか解決し、大きな問題もなく無事にできたのは、全国の仲間達に助けられたのと、JSOの職員の方々、各常任理事、各評議員、多くのボランティアの仲間達のおかげでした。本当にありがとうございます。目を疑うような光景を目にしたのは、BIG BOOK ミーティングと英語ミーティングでした。会場はサブ会場の開港記念会館で、同じ時間帯にもかかわらず、どちらの会場も立ち見が出るほど盛り上がり、ミーティング終了後会場から出てきた仲間達の熱気には、とても驚かされました。また会場周辺には、朝早くから、プログラム終了まで同じスタッフジャンパーを着た、多くのボランティアの仲間達が立って、仲間達を誘導してくれていました。

ある地方の仲間から、グループには主婦の仲間がいて、施設に通っている仲間がいて、家族がいる仲間がいて、なかなか記念集會には参加することが出来ません。といった話を聞きました。主婦の方だからこそ、施設に通っているからこそ、家族がいるからこそ参加して欲しかったですし、残念だなーと思いました。でも実は、私もそうでした。ソーバー3年目、グループの代議員の時に、九州で30周年の記念集會有りました。どこかで何かやっているのだろうかとか考えられず参加しませんでした。今思うと『行けば良かったな』とつくづく思います。45周年は関西で行われることが決まりました。その時は、多くの新しい仲間達を連れて絶対に参加します。

今回のテーマは、『まだ出会っていない仲間たちへ』でした。酒なしで生きることの大事さを、この集會を通して、全国の仲間へ届けられたのと同時に、まだAAの存在さえ知らない仲間が多く日本中にいることを忘れてはいけないかと思えます。今回の実行委員会の一員でいたこと、全国の多くの仲間達に会えたこと感謝しております。

記念集會を振り返って

AA日本常任理事会企画担当理事 中村

オープニングセレモニー:開幕のブザーが鳴り、静かに緞帳が上がる様子を見あげていた私は、急にスポットライトを浴びた瞬間、何故か両手を高くとV字に掲げ、ゆっくりと扇ぎ廻して会場全体に拍手を求めています。今思い起こすと、3年間に及ぶ実行委員会の真摯な努力と、全てのグループから頂いた献金のお蔭で、今この瞬間がある！と思ったら、私はごく自然にハイヤーパワーへの感謝を

満場の拍手を以て捧げようとしていました。

今回、様々な事情から已む無く実行委員会を去ったメンバー達が居ました、また病気で亡くなったメンバーも居ました。そして、何よりも会場には来ていない「いま苦しんでいるアルコールクたち」に今日の佳き日の福音を“まだ出会っていない仲間たちへ”

Helpothers“のテーマに寄せて指し向けたいと願っていました。

自分でもびっくりするほど衝動的な行為となりましたが、私は不思議に落ちていました。後は、皆に迷惑が掛からないよう自分の役割を無事に果たし終えることだけを願っていました。

記念誌頒布/当日ボランティアの活躍:記念集會実行委員会と同時並行して進めて来た「AA日本40周年記念誌」は、開催日頒布を目指して編集作業を進めて来ました。当日のお披露目頒布の場をロビー内に設けて頂きました。丁度、皆が喫煙所に向う途中にあった事も幸いしたのか、当日配布用に用意した800冊は二日目の昼過ぎには完売してしまいました。実際に本書を手にした方から、内容、大きさ、価格帯、共に高い評価を頂き、今後の広報活動で活用して頂ければとお願いする所です。

当日ボランティアの活躍:書籍頒布をはじめ、街頭に立つ歓迎、クローク、受付等、多くのメンバーが当日ボランティアとして活躍して下さいました。彼らは、大ホールや会場毎の催し物よりも、エントランスのごった返す様子や、出会い再会の喜びに沸く人たちの笑顔や喜ぶ姿を見たいが為に手伝っていたのではないかと思うほど、実に楽しそうに過ごしていたように拝察致しました。これぞAAフェローシップの醍醐味、これもまた周年行事の楽しみ方の一つなのですね。

初物尽くしの大会:聞き及ぶところ、30周年の際にプレスリリースの案内をしたら1社も来なかったと云います。今回、その経験から地道な事前案内を繰り返す、プレスリリースにはメディアが3社も取材に来てくれました。また開催前日には全国誌で日本のAAが40周年を迎えた事をNPO法人AA日本ゼネラルサービスとして紹介記事にして頂けました。

受付に用意された芳名帳には、約100名近くの行政及び施設関係者や家族、メディアの参加が得られたことも確認出来、常任理事会としてAA日本最大級の広報を謳った面目も果たせたかと思っています。

結果として、来場者数は2200名と当初の目標を大きく上回りました。初めての積立金方式の呼びかけにも予算額を上回る基金が寄せられました。AA日本がこれまで開催して来た周年行事の記録全てを塗り替えるような成果を、今回の周年行事では得られたと思います。そして、次にはもっとという期待感が45周年の大きな課題となってきました。

反省を踏み台に:グループに相談があります。これまで、5年毎の周年行の開催地域決定や実行委員会の立上げ時期はその都度様々でした。また、4年任期の常任理事は2年毎に担当役割の入れ替えを行うのが習い事です。つまり、実行委員会活動期間は概ね約3年間として、その期間中に担当の常任理事が最大で3人交替する場合があります。

40周年の場合、2011年末には準備委員会が立上げられ2012年初めには常任理事を交えた実行委員会がスタートしています。私は、2012年の評議会で選出されて4月の常任理事会で企画担当となり、5月の実行委員会へ初めて参加しました。その時、いきなり「常任理事会のやる気を見せて欲しい」と云われて面食らいました。

40周年記念集会に関する評議会勧告決議は、それまでの周年行事とは趣を異にし、企画から開催までを実行委員会に一任されている為、常任理事会が果たすべき役どころが不明瞭でした。それが為か、委員会は時に喧々囂々とお互いの立場や意見の主張を合う場面が多々ありました。それも、途中で担当理事が変わらなければならない輪番制に起因しているように私は思いました。それを考えると、アメリカ/カナダの周年行事がGSOコーディネイトとしている所に問題解決のカギがあるようにも思えます。きっと、アメリカ/カナダの周年行事に於いても似たような問題があったのではないだろうか？と思います。今度、機会があったら教えて貰おうと思います。

そして、お互いを理解すべく心を開き、耳を傾ける姿勢は「代議員の為の序文」そのままに、AAのステップと伝統と概念を用いても一人のアルコホーリックに自分たちを捧げる事が優先されて、徐々にまとまりを持ったと思います。

本当に、本当にありがとうございました。

グレイスグループ ガンプ

2015年2月20日、21日、22日、神奈川県横浜市でAA日本40周年記念集会が盛大に開催されました。

参加者の数は2000人にもものぼり、本当に日本中、世界中から仲間達が沢山駆けつけてくれました。日本国内の様々な県旗や海外からの参加者が高く高く掲げた国旗の並んだフラッグ行進。そして、ソプラエティ40年から、4日の仲間まで続いたカウントダウン。一言一言メッセージの込められたサヨナラセレモニー。

本当に本当に素晴らしい。ただ、その一言に尽きる記念集会でした。

今回、私がAA日本40周年記念集会に関わり始めたのは、2年くらい前からだったと思います。当時、グループの代議員経験しか無かった私は正直、実行委員会に参加するのに、ものすごく恐れを持っていました。

しかし、その前から実行委員会に参加していた仲間達の声かけもあり、毎月、なんとかかんとか横浜へ通い、実行委員会への参加を続けさせていただきました。正直、何十人もの仲間達が集って行う実行委員会。腹が立ったり、イライラする事も沢山ありました。

ただ、それでも、色んな仲間達と出会い、分かち合いを重ねる内に、徐々に親しみや仲間意識みたいなものが育っていき、気がついた時にはとても居心地の良い場所になっていました

そして、無事に開催当日を迎え、3日間のプログラムを終え、記念集会の幕が閉じていく時、今まで、感じた事が無いくらい胸がいっぱいになり、熱い熱い何かが込み上げてきました。

その時、フツとある仲間から周年行事に関わった際の経験を分かち合ってもらった時の事を思い出していました。言葉にならない感動、そして感謝と喜びが私の内側からその時、溢れてきたんです。40周年記念集会開催に向けて、関西を後にする際、一人の仲間から言われた言葉も、ずっと自分の中にありました。

『俺は、ホームグループのミーティングを開けるから、ガンプも40周年頑張ってきてや！』

そう！開催にかかった500万円と言う自発的な献金もそうだけど、各グループや各メンバーが、AAの唯一の目的を達成する為にそれぞれの役割を果たしてくれていたからこそ、AA日本40周年記念

集会は無事に開催された。

日本の全てのAAグループ、AAメンバーによって、開催されたのだと降りていく40周年の幕を見つめながら、その時、深く深く実感しました。そして、今回は関西地域の仲間達からも、実行委員会参加にかかる交通費の一部を献金から負担していただき、なんとか無事に通い続ける事が出来ました。本当に、感謝します。

さあー、次回、AA日本45周年記念集会は関西地域にて開催されます。

私も、今回の40周年記念集会に関わせてもらってきた経験を活かし、みんなと共に記念集会開催に向けて、努力していきたい気持ちでいっぱいです。皆様、AA日本の45周年も、何とぞよろしくお願いいたします。

本当に、本当にありがとうございました。感謝いたします。

日々のサービス活動が記念集会への関わりに繋がった

ビッグブック横浜グループ ほっと

私にとって初めての周年行事参加。実行委員会に加わらないまま月日は過ぎていたが、日常的にグループ・地区・地域のサービス活動に取り組んでいたら、必然なのか、いつのまにか40周年記念集会にも関わるようになっていた。

一つは広報活動。地域広報委員会の参加も経て、3年前から「横浜地区の集い」実行委員会で仲間と共に広報活動に取り組んできた。今年は3月開催「横浜地区の集い」と併せ、2月開催「40周年記念集会」の広報を行うことになった。日中動けるメンバーが多く、実働基盤のグループ数が20以上、交通利便が良い等、横浜地区のAA内外の地域性を活かして、基本、案内を手持ちで届けた。グループに割り振った身近な広報先にメンバーが案内状とチラシのセットを持参する。郵送と違いリアルな姿もメッセージ。関係づくり、多くの仲間の広報体験を大切に活動を目指した。ミーティング会場施設、福祉・医療・教育・行政・交通機関、救急車でのお世話になったことを忘れがちな消防署へも。その他ローカルメディア(新聞社投稿欄、ネット配信ニュース、フリーペーパー)、社会福祉・市民活動系の新聞社、情報誌、ネット情報サイト、メルマガへの情報提供等。トータルで200件近く広報を行い、告知や取材、参加、多くの協力を得られたことに深く感謝したい。

もう一つは概念ミーティング。日々のサービス活動は充実感と共に行き詰まり感もあり、学びの機会にと引き受けた司会だったが、無力を認めて、仲間に話を聞き歩き、サービスオフィスで資料を得て、テキストに線を引いて読み…受験生みたいな心境だった。当日テーマは「概念って何に？みんなのための概念ミーティング」。新しい仲間へのメッセージに概念の活用法、日本AA各時期のサービスシステム構築、グループ活動とゼネラルサービス等。会場には多くの仲間が訪れ、4名の仲間に体験を通して貴重なメッセージをもらった。あたりまえに享受していたサービス活動のあり方は、幾度も話し合いを重ね最善を決める努力をしてきた先行く仲間たちからのギフト。理解を深めて大事に活用していきたいとあらためて感じた。そしてグループの仲間と一緒に過ごした三日間はいつもと同じように楽しい中に葛藤あり。しかし飲まない日々の原点はやはりここにあるのだろう。40周年記念集会での沢山の出会いや経験を、また日常のサービス活動に活かしていけたらと思っている。与えられた機会に、すべての仲間に、感謝。

■ 常任理事会より

在任期間は4年9カ月でした。

金杉クリニック院長（前A類常任理事） 金杉 和夫

在任期間は4年9カ月でした。B類の理事の方々には2年ごとに半分メンバーが入れ替わり4年で辞めて行くので、最後の9カ月は私が最古参になり妙な気分でした。顔を覚えて人柄が判ってきた頃には、また次の人に代わる輪番制は慌ただしく別れが寂しい気もしますが、良く出来た仕組みだと思います。多くの人たちが参加して同じ目的を持ち、少数の人に権力を独占させず、駅伝のようにタスキを繋いで前へ前へと悪天候の中でも、険しい山道でも進んで行けます。しかし輪番制の理事会が有効に機能するためには、漫然と先例を踏襲し無批判に現状を肯定し重要な問題を先送りにしないように、新しい理事が加わるたびにAAの原則や伝統に立ち返って、また社会の動きや常識も踏まえて議論し、評議員やグループに意見を求め問題を解決していく努力が必要です。最後に私の在任中に議論されて今後の理事会でも大切だと思う問題をいくつか挙げておきたいと思います。

1. 当初はJISOの所長人事が理事会紛糾の火種になっていました。ようやく増田さんに決まり更に村田さんへと引き継がれ、特に経理状況が明解になって理事会の議事が円滑になったと思う。JISOの所長人事は、AAのキャリアにこだわらず、一般公募で広く人材を求めて、選考委員会を設けて、事務、経理、コミュニケーションなどの能力を評価した上で理事会に諮り十分に検討して決定するのがよいと思う。
2. 財政の慢性的な赤字は先送りできない問題です。メンバーからの献金を有効に使って、孤立し苦しんでいるアルコールックに回復のメッセージを届けるサービスを行うのが理事会の仕事ですが、もっともっとサービスを増やしたくても献金は簡単には増えません。限られた献金をいかに有効に使うかという考え方で、成長、発展型ではなく儉約、持続可能型の予算を立てる必要があります。
3. 出版はAAにとって、収入源として、広報の資源として、何よりも知的財産として重要です。今は本の定価、発行部数、表紙のデザインまで理事会に諮っていますが、もっと出版部門の権限と責任を大きくして、高い見識に基づく出版計画と安定した経営収支を作り、持続的な出版事業として運営すべきでしょう。
4. NPO法人とAAの関係はかなりはっきりしてきたと思う。NPO法人が市民に開かれた組織であることを活用して、AAと関係者や専門家や市民運動との連帯を広げることができると私は思っている。一方でAAメンバーの献金を預かってオフィスの管理運営をするのは、NPO法人よりもAAとの関係が明確な法人がよいという考えも理解できる。新たな法人の構想も検討すべきだろう。

(2015年2月21日記)

A類常任理事を拝命いたしました後藤恵です。

A類常任理事 後藤 恵

このたび金杉先生の後任として、A類常任理事を拝命いたしました後藤恵です。現在成増厚生病院に勤務する精神科医(診療部長)であり、同時に翠会ヘルスケアグループ精神医学研究所の副所長を兼任しております。また昨年、東京医科歯科大学でアルコール依存症の臨床講義を担当しております。

私はロンドン大学精神医学研究所で嗜癲行動科学を学んだのち、1995年からアルコール依存症を中心とした依存症関係の治療に携わってまいりました。当時の英米では、動機づけ面接法の登場によって依存症の治療が大規模な転換を遂げたところでした。動機づけ面接法は、依存症者の否認や抵抗を性格の問題とみなさず、アルコール依存症の症状(脳機能障害)として理解します。即ち、否認や抵抗にこだわらず、問題があれば、反映的傾聴によって共感をあらし、良好な治療関係を通して、断酒の動機を構築する面接法です。従って、1995年以後の私は、底をついて断酒の意志を固めた人ばかりでなく、断酒の意志が曖昧な人や、依存症であることを認めない人も、積極的に治療に導入するよう努力してまいりました。そういう人達も、実際にAAにつながり、AAの仲間の中で自分の問題を見つめるうちに、少しずつ依存症であることを認め、断酒の道を選ぶようになりました。

換言すれば、依存症専門の精神科医としての私の仕事は、AAという共同体の力によって成立しているといっても過言ではありません。AAなくしては、依存症の人たちが断酒し、立ち直って、新しく生きなおしていくのは、非常に難しいでしょう。今回私は、AAの皆様に対するささやかな恩返しのもついで、常任理事と言う大役を引き受けることにいたしました。微力ではございますが、精一杯力を尽くしてまいりたいと存じます。

AA40周年記念出版

～ まだまだ在庫あります ～

卓上日めくり版『今日を新たに』

頒布価格 ¥2,000

従来の「今日を新たに」と内容は同じですが、卓上型日めくりカレンダースタイルで限定1,500部をお届けいたします。

各グループのミーティング場の中央に、またそれぞれ個人の上で毎日の確認など、末永くご利用ください。(B6, 366頁+α)



編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休